

百人一首を通じて自尊感情を育てたい

五色百人一首教室 有川 聡

一・五色百人一首教室について
百人一首の最大の魅力は、年齢も性別もこえて一緒に取り組めることです。

練習会には、約二十人の子どもたちが集まります。

その中には、近畿地区トップレベルの選手たちもいます。近年の成績は、五色百人一首近畿大会

個人戦優勝一回、準優勝四回、団体戦ベスト8二回。県大会も優勝・入賞者が多数。兵庫県では、強豪と言われるようになりました。

その一方で、ひらがなが読めるようになったばかりの幼稚園のお子さんも参加しています。札を一枚暗記したので、その一枚だけは飛びついて取っています。

そのように、年齢も学校も実力も様々な子どもたちですが、百人一首を通じて切磋琢磨し、仲よくなっています。

二・五色百人一首とは

「百人一首」というと、札を百枚並べて試合をするものだと思われるかもしれませんが、



しかし、百枚の札で試合をすると、札の暗記が大変、札を探すのも大変、長時間の試合で集中力が持たないという困難さがありました。それでは、子どもたちが百人一首の楽しさを知る前に、百人一首が嫌になってしまいます。

百人一首が強くなるために、最も大切なのは暗記です。百枚を暗記するのは大変ですが、五色百人一首の二十枚なら短期間で覚えられます。ですから、短期間で力が伸びます。

三・五色百人一首教室の目的

この教室の最大の目的は、百人一首が強い子どもを育てることではありません。

百人一首を通して、子どもたちの自尊感情を育てることです。

百人一首は、努力すれば、確実に強くなっていきます。「努力して、それが報われた。」という成功経験をした子は、自分に自信を持つことができます。

大会に勝つことだけが、成功体験ではありません。札を一枚覚えたこと、一枚でも

そこで、百人一首を二十枚ずつに分け、五色に色分けした「五色百人一首」が作られました。

五色百人一首では、二十枚の札だけで試合をします。そうすると、札を探すのは簡単。試合時間は、一

試合わずか三分間。そのおかげで、小さなお子さんでも、集中して取り組むことができます。

心を育てていきたいです。

練習会は、毎月第一・三日曜日の十時〜十二時に福崎町文化センターで行っています。



「日々の生活に彩りを」
アートフラワー
代表 坪田 教子

「アートフラワー」は、アートフラワー（造花）を手造りしているクラブです。会員みんなで楽しく和気あいあいと活動しています。

工程は、白い布で型を切り、色を染め、コテを当てて花の型を整え、仕上げていきます。四季折々の種類の花を造り、出来上がると家の中に飾ったり、知り合いの方にプレゼントしたりして喜んでいただけたいです。

私事ですが、三十五年間、アートフラワーの指導を続けています。現在、第一・第三土曜日の午後文化センター二階和室で活動しています。

お花の好きな方、何か趣味を持ちたい方、私たちとアートフラワーを造ってみませんか？素敵なアートフラワーが日々の生活に彩りをもたらしてくれます。ぜひ、一度見学にいらっしやってください。

第三十四回 福崎町美術展作品募集

第三十四回福崎町美術展（公募展）の作品を募集します。
皆様方のご応募を心よりお待ちしております。

◆会期 平成二十八年

五月二十日（金）～
五月二十二日（日）

◆会場 福崎町エルデホール

◆主催 福崎町・福崎町教育委員会

◆部門 日本画・洋画・書・写真・
彫塑工芸

応募は一部門一人一点、未発表の作品に限る。

◆作品搬入

平成二十八年五月十四日（土）
午前九時～午後四時

◆審査員

日本画 平内 安彦
洋画 初田 寿
書 福島 松韻
写真 柳原 香
彫塑・工芸 山本 和子

山桃忌奉賛 第三十一回短歌祭作品募集

柳田國男先生と井上通泰先生の命日にちなみ、両先生を偲ぶ会として、毎年八月に柳田國男・松岡家記念館により山桃忌が行われています。
短歌祭は文化協会と福崎短歌会により、山桃忌の当日に行っています。
本年の短歌祭は、左記の要領で作品を募集します。

記

日時 平成二十八年八月六日（土）
場所 福崎町文化センター

主催 福崎町文化協会・福崎短歌会

作品 未発表のもの・一人二首以内

応募料 一首につき五百円

要領 原稿用紙に楷書で縦書き

宛先 福崎町文化センター内

宛 文化協会事務局

締切 平成二十八年八月三十日（木）

賞 通泰賞・町長賞・議長賞・教

育長賞・文化協会会長賞・商工

会長賞・JA兵庫西賞・神戸

新聞社賞の各賞と佳作多数

選者 楠田立身 先生

（兵庫県歌人クラブ顧問）

表紙の 写真

辻川山（西田原）の山頂に、昨年三月に完成した展望スペース「望郷の丘」からの眺望です。

福崎町出身の歌人・岸上大作を顕彰するため建設されました。大作が生まれ育った井ノ口地区が一望でき、壁面には大作の写真と故郷を詠んだ短歌が焼き付けられたタイルが掲げられ、功績をしのぶことができます。

展望台のベンチに座って、生家跡や福崎高校、岸上家の墓所など、ゆかりの場所に大作の生涯をたどり、今なお多くの人の心をとらえて離さない大作の短歌を口ずさんでみてください。



編集後記

たくさんの方々のご協力により、福崎町文化第三十二号を発刊することができました。

玉稿をお願いしました皆様方には大変お忙しい中執筆いただき、ご協力くださいましたこと厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

